

# 令和2年第15回定例公安委員会会議録

開催日時 令和2年6月4日(木) 午前11時10分～午後2時50分

開催場所 警察本部

## 第1 定例会議

1 開催時間 午後1時30分～午後2時20分

### 2 出席者

公安委員会 小谷委員長 衣笠委員 勝部委員

警察本部 津田警察本部長 川島警務部長 柴田首席監察官  
河本生活安全部長 笠田刑事部総括参事官 保田交通部長  
谷村警備部長 本庄警察学校長 濱口情報通信部長  
細田警務部参事官 山本黒坂警察署長

(事務局等～松本公安委員会補佐室長、中田補佐)

### 3 議題事項

### 4 報告事項

- 6月補正予算案(警察関係)の概要(警務部)
- 「ゾーン30」の整備状況(交通部)
- 黒坂警察署の取組(活動)状況(黒坂警察署)

(1) 6月補正予算案(警察関係)の概要(警務部)

#### 警察本部

警察関係の6月補正予算案は、本年5月27日に新型コロナウイルス感染症に係る国の第2次補正予算案が閣議決定されたことに伴い、補助事業の追加を行う。

補正予算の内容は、留置施設における新型コロナウイルス感染症の感染予防対

策事業として1,315万円を措置し、感染クラスターの発生を未然防止するため、分隔された居室に透明アクリル板及び分隔されたエリアにシャワー室を設置するほか、呼吸器不全や肺炎の早期発見等に有効なパルスオキシメーターを購入する。

補正後の警察費予算総額は、約170億2,854万円となる。

今後も、警察職員及び被留置者の感染予防に万全を期す所存である。

#### 委員

どの警察署の留置施設を改修するか。

#### 警察本部

改修予定は1署であり、現在検討中である。

#### 委員

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、透明アクリル板の設置は、留置施設のほか、交番などでも必要だと思うが、そのような予定はあるか。

#### 警察本部

本年度の当初予算で、交番、駐在所の総合安全対策として予算を計上しており、県下全ての交番にカウンターパネルを設置予定である。これは、受傷事故防止の観点から行うものであるが、新型コロナウイルス感染症の感染防止にも有効だと考えている。

#### 委員

予算にも限りがあるので、今あるものを有効に活用し、感染防止に配慮していただきたい。

#### 警察本部

今後、留置施設で対象となる被留置者がいる場合は、改修した警察署に留置することとなる。引き続き、職員と被留置者の感染防止に努める。

### (2)「ゾーン30」の整備状況（交通部）

#### 警察本部

ゾーン30は、生活道路における歩行者優先の安全・安心な歩行空間の整備に向けたゾーン対策として、平成23年から整備を進めているものであり、警察と道路管理者が連携して取り組む安全対策である。

最高速度を時速30キロと設定しているのは、車両と歩行者が衝突した場合、時速30キロを超えると、歩行者の致死率が大きく上昇するというデータに基づ

くものである。

昨年度は、智頭小学校エリア、久松小学校エリア及び若葉台小学校エリアに整備しており、本日現在では、県内に20か所整備している。人口10万人当たりの整備率は全国第8位である。また、本年度も数か所を整備する方針で手続を進めている。

ゾーン30の整備効果について、平成29年9月に整備した鳥取市内の修立小学校エリアを例にすると、同所は、小学校のほか、高校や幼稚園が所在するエリアであるが、平成30年の複合商業施設の立地に伴い、周辺道路において車両及び人の流れが大きく変化することが予想されたことから、地元住民と意見交換を行い、ゾーン30エリアの設定を行った。さらに、道路管理者等により、イメージハンプ、カラー舗装にするなどの安全対策を実施した。

ゾーン30整備後、車両の走行速度が低下するなど、一定の効果が認められた。

今後も、生活道路における歩行者優先の安全・安心な歩行空間を整備するため、道路管理者や地域住民の方々と協力し、ゾーン30の整備に取り組んでいく。

#### 委員

ゾーン30整備の効果が表れており、住民にとっても良いことだと思う。

#### 警察本部

ゾーン30規制が浸透してきたことも一因と考える。

#### 委員

初期に整備した箇所では、表示が薄れているなど、補修が必要な箇所があれば対応していただきたい。

#### 委員

イメージハンプなどの道路標示は、視覚的にも目立つので、運転手への注意喚起にもなる。ゾーン30を更に浸透させるため、地域と連携して意識付けを行っていただきたい。

#### 警察本部

引き続き、広報等を実施する。

### (3) 黒坂警察署の取組（活動）状況（黒坂警察署）

#### 黒坂警察署

当署は4町を管轄しているが、県内の市町村別高齢化率の1位から3位を管内の3町が占めている。また、管内の高齢化率平均は約48パーセントと、鳥取県の高齢化率よりも約16ポイント多く、高齢化が進んでいる地域である。そのた

め、従前から高齢者に対する各種被害防止広報や情報発信を重点的に行っている。

主な取組としては、移動販売業者等と連携した広報啓発活動を実施している。

これは、様々な情報に触れる機会が乏しい高齢者もいることから、日常的に管内を回っておられる移動販売業者及び山陰ヤクルト販売株式会社に御協力いただき、交通安全や防犯に関する広報紙を配布していただいている。これにより、日頃の広報に加え、県内で交通死亡事故や特殊詐欺が発生した際には、タイムリーな情報提供が可能である。中山間地域に居住する高齢者からは、「遠出が困難な中、身近なところで情報を知ることができ、助かる。」などの反響がある。また、特殊詐欺被害防止広報の一環として、管内の日野高校と連携した取組を実施している。これは、警察署協議会より、「特殊詐欺被害防止のため、自宅電話を留守番電話に設定することについて広報を行ってはどうか。」と提言を受けたことから、効果的な施策を検討した結果、日野高校に御協力いただき、高校生による特殊詐欺被害対策用の留守番電話メッセージを制作した。同メッセージの内容は県警ホームページに掲載しているほか、駐在所員が管内の居宅を訪問した際、希望者にはメッセージの設定作業をサポートしている。

なお、日野高校については、令和元年12月に「黒坂警察署安全安心サポート校」に指定し、各種広報活動に御協力いただいている。

このほか、従前から地域に密着した広報媒体として、ケーブルテレビを活用した情報発信活動を推進している。これも、警察署協議会より、「高齢者はケーブルテレビをよく見ているので、駐在所員が出演し、広報してはどうか。」との提言を受け、管内4町のうち、放送局を保有している3町のケーブルテレビに駐在所員が出演し、各種情報発信を行っている。住民からは好評であるほか、新型コロナウイルス感染症の影響で外出自粛となり広報活動が困難となるなか、効果的な広報手段だと考えている。

今後も、多くの住民に正しい情報を伝えることができるよう、あらゆる機会や手段を活用し、効果的な広報活動に取り組んでいく。

#### 委員

黒坂警察署は管内がとても広いが、きめ細かに対応されている。高校や地域と連携した活動をされており、とても良い取組だと思う。

高齢化率が高い地域ということだが、日中は若い方が仕事で自宅を不在にするので、不安を感じる高齢者もいる。警察官がパトロールをしている姿を見るだけでも安心を感じる方もいると思うので、引き続き、丁寧な対応をお願いする。

#### 委員

中山間地域では、駐在所の存在は大きいと思う。直接住民と会うことは難しいこともあると思うが、パトロールやケーブルテレビなどで姿を見せるだけでも警察に対する信頼につながる。また、警察署協議会の提言を受け、それを警察運営に反映されており、住民の意見が届いていると感じた。署員の方々も頑張っておられると思うので、署長から署員への声掛けも行っていただきたい。

## 委員

とても地域に密着した活動をされている。高校との連携についても、高校生に警察を理解してもらう機会にもなるので、更に活発な活動になると良いと思う。引き続き、住民のための活動をよろしく願います。

## 5 その他

- 指定暴力団六代目山口組大同会幹部による拳銃使用殺人未遂事件に対する措置（刑事部）
- 出水期に向けた対策等（警備部）

### （１） 指定暴力団六代目山口組大同会幹部による拳銃使用殺人未遂事件に対する措置（刑事部）

#### 警察本部

5月30日、岡山市内の神戸山口組池田組事務所付近において、指定暴力団六代目山口組大同会幹部による拳銃使用の殺人未遂事件が発生し、同日、被疑者は、警戒中の岡山県警察官により、銃刀法違反で現行犯逮捕された。

本件は、六代目山口組と神戸山口組の対立抗争に起因するとみられ、米子市内に事務所がある大同会に対する報復行為が予想されることから、住民への危害防止及び抗争の拡大防止の徹底を図るため、大同会事務所等の警戒、関連情報の収集等を実施するとともに、教育委員会等を通じ、通学路における警戒やパトロールなどの警察活動の情報提供を行った。

今後も警戒活動等を継続するとともに、住民の平穏な生活を確保するため、暴力団事務所に対する事務所使用制限仮命令発出の手続を行う。

## 委員

対立抗争に係るものなので、引き続き、緊張感を持って勤務に当たり、厳正に対処していただきたい。

### （２） 出水期に向けた対策等（警備部）

#### 警察本部

新型コロナウイルス感染症対策により、出水期に向けた各種研修会の開催を延期していたが、梅雨の時期に入り、集中豪雨や台風の発生などによる災害の発生が懸念されることから、各警察署管内の災害危険箇所点検や基礎資料の更新を行う。また、災害に対する職員の危機管理意識を醸成させるとともに、災害に的確に対処するための危機管理体制を検証し、各種研修会や実動訓練を実施して、災害発生に備える。

## 委員

実際に災害が発生した場合、想定以上のことがあったり、混乱することもあると思う。そのような場合でも臨機応変に対処するため、日頃の訓練が重要だと思う。

## 委員

災害はいつ発生してもおかしくない。引き続き、有事の際は対処できるよう、よろしく願います。

## 第2 その他の公安委員会活動

### 1 意見の聴取

運転免許課から、道路交通法に基づく意見の聴取2件について、事案概要、処分理由、当事者の陳述要旨、基本量定等を詳細に聴取し量定を決定した。

### 2 事前説明

指定暴力団六代目山口組大同会幹部による拳銃使用殺人未遂事件に対する措置

### 3 報告事項

訟務案件

### 4 決裁

- ・教習資格認定申請の不認定
- ・指定暴力団六代目山口組大同会幹部による拳銃使用殺人未遂事件に対する措置

### 5 行事等

視察（危険予測トレーニング）

### 6 警察本部との昼食会

警察本部との昼食会に、本部長、警務部長、交通部長の出席を求め、意見交換を行った

7 公安委員会委員間の事前検討・協議等

8 公安委員会補佐室からの事務連絡等

公安委員会補佐室から当面の行事予定等について確認と説明があり、了承した。